

令和4年度
第1回長浜市景観審議会
会 議 要 点 録

長浜市景観審議会

令和4年度第1回長浜市景観審議会 会議要点録

○日 時 令和4年8月8日(月) 13時30分から15時00分まで

○場 所 長浜市役所4階 4-A 会議室

○出席委員 6人

阿部俊彦(会長)、山崎泰寛(副会長)、大村悟子、西川丈雄、松山利喜雄、
山口陽稔(敬称略)

○欠席委員 4人

東幸代、小財憲司、佐藤泉、中辻克明(敬称略)

○事務局 5人

横山部長、井口課長、二村係長、田中主幹、村田主事

○傍聴人 0人

○配布資料

- ・資料1 長浜市景観審議会 委員名簿
- ・資料2 長浜市景観審議会の設置等に関する規定について
- ・資料3 長浜市情報公開条例及び附属機関の会議の公開等に関する要綱
- ・資料4 長浜市景観まちづくり計画の改定について
- ・資料5 令和4年度実施 長浜市景観まちづくり計画改定事前調査の内容

○会議要点録

1 開会

2 あいさつ

3 会長・副会長選出

会長に阿部俊彦氏、副会長に山崎泰寛氏を選出。

4 会議の公開について

資料3に基づき説明。「附属機関の会議の公開等に関する要綱」第2条第1項の規定に基づき、
会議を公開することとした。

5 審議事項

■諮問第4-1号 長浜市景観まちづくり計画の改定について

- ・資料4に基づき、計画の改定趣旨、改定方針、スケジュールを事務局から説明
- ・資料5に基づき、長浜市景観まちづくり計画改定事前調査業務概要(市民アンケート、ヒアリング調査等)を委託業者から説明。

【質疑応答】

(委員)

- ・アンケートの中に回答者が景観形成重点区域の写真に点数を付ける項目があるが、現在の写真だけではなく、制定当時と現在を比較することが大事である。
- ・まちづくり活動は「地域づくり協議会」を単位として行われているが、「地域づくり協議会」の区域と小学校区が整合しない地域があるため、回答者の住まいを聞く場合は、小学校区単位ではなく、自治会単位で確認してはどうか。
- ・「親しみや誇りを持てる好きな景観」「自然や歴史を感じる長浜らしい景観」と感じるものを聞く質問の選択肢の中に「まちなかの小さな河川」とあるが、一地点なのか、河川全体なのか、沿線なのか、人によって解釈が変わるかもしれない。

(会長)

- ・お住まいの地域の回答については、回答者が答えやすいことが重要である。
- ・回答者がどこに住んでいるのかピンポイントで知りたいわけではなく、大まかにどのエリアに住んでいる人が景観についてどのような考えを持っているのかを知りたい。
- ・どのように聞けば回答しやすいか事務局で検討をお願いしたい。
- ・景観形成重点区域の写真に点数を付ける項目については、写真をただ評価してもらうだけではなく、評価した理由や、何を対象に景観を意識しているのかを聞き出すべきである。
- ・現在の写真に点数を付けるだけではなく、昔の写真と現在の写真を並べて、景観まちづくり計画によってこのように変化したことどう思うか聞けるとよい。
- ・何を評価してその点数なのか、人によって目の付け所が違う。アンケートでは何に目を付けたのかを聞く必要がある。
- ・評価が高い景観が重要、評価が低い景観は不要ではない。
- ・全てアンケートで聞き出すことはできないので、ヒアリングも含め、何が良い景観として重要な要素なのかを聞き出すべきである。

(委員)

- ・景観形成重点区域の写真だが、回答者はそれぞれこの写真かわからないのでは。

(事務局)

- ・まちなみや写真のタイトルだけでは、どこの写真か判断できないという課題がある。

(委員)

- ・どこの写真か判断できない場合は、「わからない」「知らない」という回答になってしまう。視点を変えて何枚か写真を掲載したり、地図上のどのエリアのどの視点から撮った写真かわかる参考図等が必要ではないか。
- ・アンケートが最初から固く感じる。市民がアンケートに協力したくなるような工夫が必要である。例えば、将来の景観形成に繋がることを記載したり、所要時間の目安を書いてはどうか。文字ばかりだと答えたくない。

(委員)

- ・アンケート対象者を 1,500 人にした根拠はあるのか。

(会長)

- ・今回の市民アンケートは、回答者全員の深い考えを知るためのものではなく、あくまでも傾向を掴むためであり、ヒアリング調査で、景観に思い入れのある人に深く話を聞くことが重要だと思う。
- ・アンケートとヒアリングを行うことで、市全体の傾向と景観に対する意見や思いのどちらも計画に反映することができると思う。

(委員)

- ・アンケートの回収率は一般的にどれくらいか。

(事務局)

- ・3割程度である。

(委員)

- ・景観まちづくり計画が過去に3回変更されているが、具体的にどのような経緯で改定したのか。
- ・長浜市の景観まちづくり計画が他の自治体の計画とどう違うのかがわかるとよい。
- ・ポジティブな景観に対して評価を求めている質問が多いが、ネガティブな景観に対する意見を求めることも計画改定において重要ではないか。

(事務局)

- ・1回目の計画変更が平成22年1月に1市6町合併に伴う景観計画の統一、やわた夢生小路景観形成重点区域の追加。
- ・2回目の計画変更が平成26年4月に北国街道木之本宿景観形成重点区域の追加。
- ・3回目の計画変更が令和2年4月に太陽光設置基準の追加。

(会長)

- ・今の事務局の説明から、これまで市民の盛り上がりに応じて景観形成重点区域を随時追加してきたことがわかる。
- ・今回の改定は、重点区域の追加ではなく、計画全体を見直すことができる機会である。
- ・長浜市のポジティブ、ネガティブな景観については、市民の感覚が10年前と比べて変化している。
- ・例えば統一感のある景観が「良い景観」だと思いがちだが、近年は統一感のない景観が「良い景観」という意見もある。
- ・そのような市民の感覚の変化をアンケートやヒアリングで捉えて、今までと違う視点で景観を尊重し、保全していくことができるとよい。

(委員)

- ・修景していくことが良いことなのかアンケートで聞いてみてはどうか。

(会長)

- ・他の自治体の景観計画は、実行力がない場合が多い。
- ・改定するのであれば、修景の実行について、より強い言い方や実行しやすい方法に変更することも必要かもしれない。

(委員)

- ・個別の具体的な話はヒアリングとなると、アンケートは市民の「景観感覚」のような、景観に対してどのようなことを考えているのかがわかればよい。

(委員)

- ・良い修景、悪い修景は人それぞれである。

(会長)

- ・人それぞれ違う価値観の中で、全体の傾向としては、どのような景観が心地よいのかを見つけることが重要である。
- ・アンケートの最初に「景観の満足度」を問うのは抽象的過ぎて答えにくいのではないか。

(委員)

- ・「景観の満足度」は最後に聞いてはどうか。

(委員)

- ・他自治体では、昭和レトロなまちなみを推す自治体もあるが、長浜は昭和レトロなまちなみを保全するのか、それとも新しいまちなみを指すのか。
- ・「小京都」を推してきたまちが減ってきている。ただ「小京都」を真似するだけでは人が集まらなくなってきているのではないか。それがヒントかもしれない。
- ・観光客が減少している中、何かインパクトがある要素を掴むことができるとよい。例えば「昭和が好きですか」といった若者や高齢者、観光客等が好む要素、観光客や移住者の増加につながる要素が把握できる設問を設けてはどうか。

(会長)

- ・長浜らしい景観のコンセプトやキーワードは計画の中に記載されている。今の時代でも通用するものは残しながら、新たなコンセプトやキーワードを追加してはどうか。
- ・「長浜らしい」とは何なのかをアンケートで聞くとよい。
- ・景観は物理的なデザインも大事であるが、言葉も大事である。

(委員)

- ・写真だけではどこが良くなったのかわからない。どのような取り組みを行ったのか記載し、その取り組みに対してどう思うかを聞いてはどうか。
- ・ヒアリングも大事ではあるが、聞くことができる人数は限られている。回答していただけるかは別として、アンケートにも意見を書けるようにしておくことが重要である。
- ・長浜市以外で良いと思った景観を記載できる設問があるとよい。

(会長)

- ・長浜市でも実施すべきこと、改善すべきことを記載できる設問を検討することは必要である。ただ自由記述では回答しにくいとため、幾つか選択肢を用意する必要がある。
- ・景観審議会でも議論するためにも、点数ではなく何が重要なのか、取り組み行為に対しての良し悪しを問うことができるアンケートにする必要がある。

(事務局)

- ・アンケートについては、事務局で再考後、委員に確認していただき、会長一任でアンケート完成とする。

5 閉会